

1. 整備計画の方向性

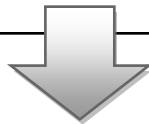
懇談会提言時

○ 現状と課題

整備面積の拡大を最優先に進め人口換算の整備率は約 97%となっているが、早い時期に整備した下水道管に起因する道路陥没事故が発生するなど、維持管理面の課題が明らかになっている。

● 懇談会の提言

早期に 100%の整備を達成するとともに、道路陥没などの事故未然防止や下水道施設の延命化、経費の低減化を図るためにも、総合的な維持管理計画を策定し、施設の修繕・改築・更新に努める必要がある。



現在の状況

◇ 下水道施設の現状（汚水：平成 25 年 4 月 1 日現在）

- ・ 供用開始 昭和 54 年 11 月
- ・ 整備済区域面積 970.9ha
- ・ 全市人口 79,997 人
- ・ 処理区域人口 79,622 人
- ・ 水洗化人口 78,527 人
- ・ 人口普及率 99.5%
- ・ 水洗化率 98.6%

* 汚水管の延長は約 218km あり、そのうち幹線は約 22.5km です。

管理するマンホールは約 9,000 か所あります。

* この設備投資の総額は約 495 億 6 千万円です。内訳は補助金約 74 億 3 千万円、起債（※）約 300 億円、残り約 121 億 3 千万円が一般会計繰入金となっています。

※「起債」：市債ともいい、市が行う借入、または借入金を示します。また、返済金である元利償還金は公債費ともいいます。

◆ 課題への対応

- 総合的な維持管理計画は未策定ですが、平成 26 年度～30 年度を対象とした維持管理計画（計画名：長岡京市公共下水道長寿命化基本計画、汚水幹線・枝線の老朽化および耐震化対策）を策定しました（平成 24 年度）。
- 継手やマンホールに関する統一された耐震基準はありません。
- 今後は、事業の中心が維持管理へと移りますので、更新費用などが必要となります。長期的視点で安定的な維持管理を行うためにも、総合的な維持管理計画の策定を急ぐ必要があります。

（資料 1）